

【白川町】 校務 DX 計画

1. 背景と目的

児童生徒一人一人の学習ペースやニーズが多様化する中で、個別指導や特別支援が求められる場面が増えている。しかし、教員の負担が大きく、十分な対応が難しい状況にある。また、白川町の学校では多くの校務が手作業や紙ベースで行われており、教員や事務職員にとって非常に時間がかかる業務となっている。

児童生徒一人一人の学習進捗やニーズに合わせた支援が可能となるシステムを導入し、個別指導を強化するとともに、AI やデータ分析を活用することで、より精度の高い学習支援を提供する。また、ペーパーレス化やデジタルツールの活用により、効率的なデータ管理を実現し、コスト削減及び教員、事務職員の負担軽減を図り持続可能な学校運営を目指す。

2. 内容

①データ活用と教育の個別化

AI を活用したデータ分析ツールを導入し、各児童生徒の学習パフォーマンスや理解度をリアルタイムで追跡する。児童生徒の学習進捗をデータとして収集・分析し、個別に最適化された指導を行う。

②ペーパーレス化の推進

文書のデジタル化を進め、申請や報告などをオンラインで管理できるシステムを導入する。紙の使用を最小限にし、環境負荷を減らすと同時に書類管理の効率を図る。また、FAX や押印の見直しも行い、業務の負担軽減を図る。

③次世代の校務システム

次世代の校務システムにおいては、岐阜県の統合型校務支援システム業務改善協議会に参加し、今後も県下統一システムを導入していく。

3. リスク管理

デジタル化を推進していく事で、児童生徒や教職員の個人情報の漏洩、サイバー攻撃のリスク増大が懸念される。多要素認証の導入や暗号化といった強固なセキュリティ対策により情報漏洩を防止し、定期的なセキュリティ診断、保守による脆弱性の検出・修正を行う。また、教職員や児童生徒に対するセキュリティ研修を実施し、安全なデータの取扱いについて徹底する。